

【番組名】群馬テレビ「ビジネスジャーナル」

【放送日】2025年1月17日(金)

【テーマ】日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター)『プラスオピニオン』のコーナー。日本銀行前橋支店長の宮将史さんに『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(宮支店長) よろしくお願いします。日本銀行では、12月13日に「企業短期経済観測調査」、いわゆる日銀短観を公表しました。日銀短観は、3か月に一度の調査で、全国では約1万社を対象に業況感や売上高などを調査しています。本日は、群馬県内の約180社を調査した結果をご説明します。

(キャスター) 前回の調査は9月でしたね。

(宮支店長) はい。こちらをご覧ください。

最近の金融経済環境	
地域	出来事
日本	(12月) 政策金利 据え置き (0.25%を維持)
米国	(11月) " ▲0.25%引き下げ(4.50~4.75%に) (12月) " ▲0.25%引き下げ(4.25~4.50%に)
欧州	(12月) " ▲0.25%引き下げ(3.00%に)
中国	(12月) 中央政治局会議 「より積極的な財政政策と適度に 緩和的な金融政策を実施していく」

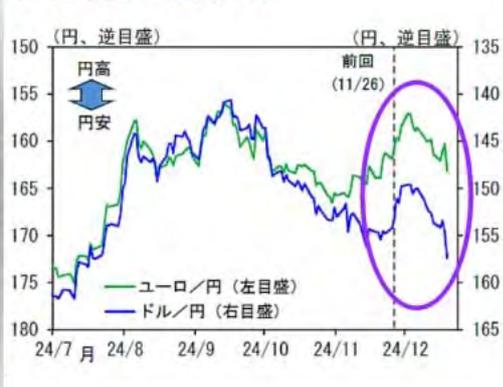
(宮支店長) 前回の9月から今回の12月までの金融経済環境を振り返ってみたいと思います。国内では、日銀が12月の金融政策決定会合で金利を据え置くなか、欧米では連続的に政策金利を引き下げています。続いてこちらをご覧ください。

マーケット概観

(1) 株式市場



(2) 外国為替市場



(出所) Bloomberg. 月例経済報告

(宮支店長) こちらは、9月から12月までのマーケットの動向をお示しております。左側の株式市場では、青い線の米国の株価は、大手ハイテク企業が牽引する形で上昇し、既往最高値圏で推移したのち、足もとでは、FOMCの結果を受けて、FRBによる利下げペースが緩やかになるとの見方から、大きく下落しています。緑の線の欧州の株価や赤い線のわが国の株価は、小幅に上昇しています。

また、右側の外国為替市場では、青い線の円の対ドル相場は、日米金利差が意識されるもとの、円安方向の動きとなっています。緑の線の円の対ユーロ相場も、概ね同様の動きとなっています

(キャスター) そのような中で、今回の日銀短観では、どのような特徴がみられましたか。

(宮支店長) はい。こちらをご覧ください。これは、業況が「良い」と答えた企業の割合から、「悪い」と答えた企業の割合を引いた、業況判断DIという指標です。この数値が大きくなるほど、企業の業況は改善していることを示しています。

業況判断D.I.(前回→今回)

	前回	今回	変化幅	企業のコメント
	24/9月	24/12月		
全産業	10	9	▲1	
製造業	2	0	▲2	<ul style="list-style-type: none"> ●コスト上昇分を価格転嫁できずに採算性が悪化(自動車、鉄鋼、生産用機械)
非製造業	20	20	+0	<ul style="list-style-type: none"> ●企業の設備投資需要が増加(建設) ●インバウンドを含む観光需要が好調(対個人サービス) ●車両価格や人件費、光熱費の高騰で採算性が悪化(運輸・郵便)

(宮支店長) 今回は、製造業が小幅に悪化した一方、非製造業は横ばいとなりました。もっとも、全産業では5期連続でプラスとなっており、県内企業の業況は全体として上向いていると言えます。

(キャスター) 変動の要因は为什么呢。

(宮支店長) はい。次のフリップをご覧ください。

2024年度・設備投資計画

	設備投資 (前年比、%)	企業のコメント
全産業	+15.6	
製造業	+19.5	<ul style="list-style-type: none"> ●生産拡大に向けた能増投資を予定(輸送用機械、電気機械)
非製造業	+4.6	<ul style="list-style-type: none"> ●新規出店を計画(小売)

(宮支店長) 左側に業況判断D I の変化、右側に調査した企業からのコメントを記載しています。

製造業のD I は、前回のプラス2 から今回は0 と、2 ポイント悪化しました。自動車や鉄鋼などの幅広い業種から、コストの上昇分を十分に価格転嫁できずに採算性が悪化しているとの声が聞かれています。

一方、非製造業のD I はプラス20 と、前回から横ばいです。建設業では企業の設備投資需要が増加したこと、対個人サービス業では観光需要が好調なことを背景に、それぞれ業況が改善しました。一方、運輸業では、コスト上昇分を価格転嫁しきれていないことから業況が悪化しており、こうした上下双方向の動きが相殺された結果、非製造業は横ばいとなりました。

(キャスター) 企業の設備投資ニーズは強いんですね。

(宮支店長) はい。設備投資の動向については次のフリップをご覧ください。

2024年度・設備投資計画

	設備投資 (前年比、%)	企業のコメント
全産業	+15.6	
製造業	+19.5	●生産拡大に向けた能増投資を予定 (輸送用機械、電気機械)
非製造業	+4.6	●新規出店を計画(小売)

(宮支店長) こちらは、2024 年度の設備投資計画を集計したものです。今回の短観では、全産業で前年比+15.6%と前年を大きく上回る計画となりました。特に製造業では、輸送用機械や電気機械などで生産拡大に向けた能増投資が計画されているため、前年比+19.5%と大幅な増加が見込まれています。中長期的な需要の増加が見込まれる業種を中心に、積極的な設備投資が計画されています。

(キャスター) 一方で、最近は物価高が続いていますが、企業への影響はいかがでしょうか。

(宮支店長) はい。こちらをご覧ください。このグラフは、企業の仕入価格と販売価格のD Iの推移です。数字が大きいほど「上昇」の動きが強いことを示しています。



(宮支店長) 仕入価格D Iの上昇超幅は、プラス56と前回から5ポイント上昇、販売価格D Iもプラス34と前回から8ポイント上昇しました。鉄などの鋼材や電子部品の仕入価格が上昇するもとの、コスト上昇分を販売価格に転嫁する動きがみられたことが、上昇の背景です。もともと、仕入価格D Iが50を超えている一方、販売価格D Iは30前後で推移しており、仕入価格D Iと販売価格D Iの大きな差は続いています。仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁できずに利益が悪化する企業は、今後もみられると考えています。

(キャスター) 価格転嫁できている先とそうでない先で、特徴はありますか。

(宮支店長) はい。次のフリップをご覧ください。

2024年度・事業計画

(前年比、%)

	売上高	経常利益	企業のコメント
大企業	+5.0	+8.8	●完成車向けの部品需要が増加(輸送用機械) ●新規出店の効果(小売)
中堅企業	+0.7	▲18.7	●仕入価格が上昇(電気機械、輸送用機械) ●取引先からの値下げ要請(生産用機械)
中小企業	▲5.2	▲1.5	●人件費が増加(輸送用機械) ●仕入価格が上昇(生産用機械、建設、卸売)

(宮支店長) こちらは、2024年度の事業計画を企業規模別に集計したものです。

大企業は売上高、経常利益とも前年比プラスとなっていますが、中堅・中小企業は仕入価格の上昇が続く中で、コスト上昇分を販売価格に十分に転嫁できないと予想している先がみられ、減益計画となっています。規模が小さい企業では、コスト高の影響で収益が悪化していることが窺われます。

(キャスター) このほか注意すべき点がありますか。

(宮支店長) はい。次のフリップをご覧ください。このグラフは、雇用人員判断D Iの推移です。数字が下がるほど、人員が不足している企業が多いことを示しています。

雇員人員判断D.I.



(宮支店長) 今回の短観では、製造業、非製造業ともに引き続き大幅な人手不足超となっており、特に非製造業の人手不足感が目立っています。

(キャスター) 人手不足は深刻な課題ですね。

(宮支店長) そうですね。こうした状況は企業の新卒者採用計画からも確認できます。次のフリップをご覧ください。

新卒者採用計画

	24年度 (前年比、%)	修正率 (前回比、%)	25年度 (前年比、%)	企業のコメント
全産業	▲9.5	▲7.7	+0.0	
製造業	+1.0	▲3.3	+5.9	●期待を込めた目標値 (輸送用機械)
非製造業	▲16.7	▲11.0	▲4.8	●募集しても人が集まらない (小売)

(宮支店長) こちらは、企業の24年度と25年度の新卒採用計画をまとめたものです。非製造業では、24年度の採用者数が前回調査から下方修正されており、前年を下回る見通しです。また、25年度も前年を下回る計画となっており、小売業を中心に、新卒を募集しても応募が少ないとの声が聞かれています。

(キャスター) それでは、最後に今回の短観結果についてまとめていただけますか。

(宮支店長) はい。今回の短観では、全産業の業況が5期連続でプラスとなり、県内景気は引き続き緩やかな回復基調にあることが確認されました。

特に非製造業では、けん引役である観光関連業種が好調さを維持しています。また、設備投資計画が前年を大幅に上回ったことも、県内経済全体への波及効果が期待できるため、前向きに捉えています。

一方、仕入価格の上昇分を販売価格に転嫁しきれずに収益が圧迫されている企業は、中小企業を中心に引き続き多くみられています。また、企業の人手不足感が依然として強いことも確認されました。これらは、企業経営を巡るリスクとして今後も注意深く見ていく必要があると思います。

(キャスター) 『プラスオピニオン』、「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、日本銀行前橋支店長の宮将史さんにお話をうかがいました。ありがとうございました。

(宮支店長) ありがとうございました。

以 上